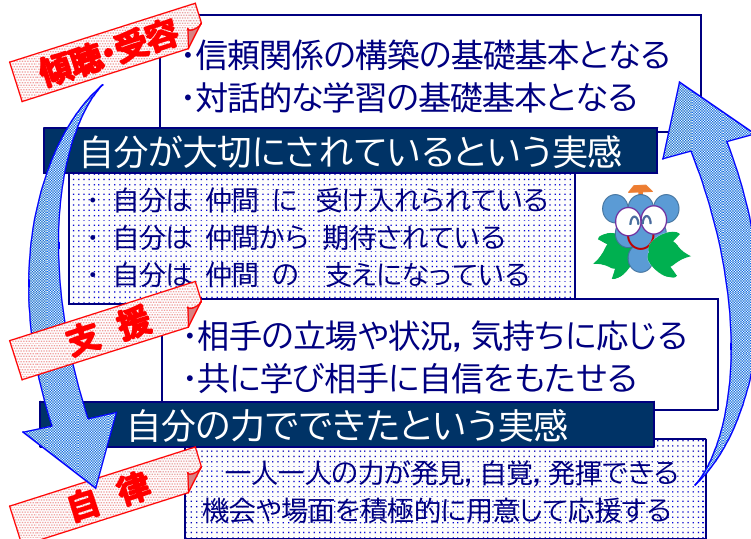


「傾聴・受容」から「支援」そして「自律」へ



支持的風土の「支援」では、一人一人の願いを学級全員で共有し、集団として成長するために、切磋琢磨しながら子ども同士が自然に支え合えることを大切にしています。

子どもは、左図のように自分が大切にされていると実感したときに初めて友達も大切にしようと思ひ、友達の立場や気持ちになって支え合い、励まし合おうとします。

令和3年度は、学校訪問や研修会等で先生方に、子ども同士の絆がより強く結ばれるように、子どもたちの可能性を信じて「待ち、見守り、委ねる」指導・支援をしていたくようをお願いしてきました。私たち教師は、「できない」「わからない」が言える学級、ふわふわ言葉のあふれる学級など、子どもたちの居場所（環境や雰囲気）をつくることはできます。しかし、子ども同士の絆は、子ども自身で結ばなければなりません。これからも先生方からは、子ども同士の望ましい「支援」の様子を捉え、その価値を自覚させ、子ども同士の絆づくりへの指導・支援を続けていきたいと思ひます。

令和4年度は、これまでのように「傾聴・受容」を大切にしながら、子ども同士、先生方と子どもとの「支援」の関係を育み、さらに「自律」の姿を目指してほしいと思ひます。そのためには、子どもたちに「自分の力でできた」という実感を味わわせ、「自律」のある学級風土づくり、自治的な集団育成にも可能な範囲で取り組んでください。

「支援」の関係から「自律」を促す特別活動

係活動では 学級生活をより楽しく豊かにするため、子どもが創意工夫をして「自分たちがやらないとみんなが困る」「自分たちがやるとみんなが喜ぶ」などの仕事をやり遂げ、子どもが自信と充実感を味わえるように、学級全体で励まし合い、認め合える活動の工夫を、教師の適切な指導の下で行います。

集会活動では 話し合い活動などを通して、集会活動の目的や方法を明かにして、「一人ではできない」「みんなでやると楽しい」活動に協力して取り組ませる中で、自分の得意のことを発揮したり、自分の不得意なことを乗り越えたりできるよう、教師が子どもの実態に応じて全体と個別に支援を行います。